論点整理

渋井康弘（名城大学）

（１）資本主義発展と軍事技術との密接な関係。

Ex.互換式製造法とフォードシステム

アンモニア合成法と爆薬製造

→故にマルクス経済学は軍事研究に一定の蓄積

（２）軍事技術と産業技術の主導性・先行性を巡る論争

①軍事技術主導説：「軍事技術および造兵と関連しているすべての技術部門の発達は、階級社会においては、それ以外の産業部門の発達に比べてより急速に行われている。」ヴェ・ダニレフスキー（桝本・岡訳）『近代技術史』岩崎書店、1954、p.254。

②産業技術先行説：「軍事技術は原則として産業技術の後塵を拝し、それがようやく一般の水準に追いつくのは、やっと戦争になってからのことである。」星野芳郎『技術革新の根本問題』勁草書房、1958 年、p.50。他に大谷良一氏。

☆ただし両氏も、第二次大戦後は軍事技術が先行しているという。

（３）冷戦期以降の軍事技術の存在感

それまで以前とは決定的に異なり、軍事技術が資本主義の構造・性格をかなり規定。

→それを分析する井上論文と藤田論文：それぞれ力作だが、視点、結論は異なる。

＊一口に技術といっても、①先端の基本技術を開発するものなのか、あるいは、②それを応用し、ラインに編成して量産を実現するものなのかは、区別すべき。

＊技術が資本主義経済に対して持つ意味の分析も、①冷戦期にアメリカが軍事で囲い込みながら技術開発した局面と、②ポスト冷戦期にそれらを選別しつつ開放して、ベンチャーを含む米系企業がいち早くビジネス・モデルを確立した局面とは、区別すべき。